



Koyori Project 2025

2025国際交流プログラム実施報告書
生産デザイン学科プロダクトデザイン研究室

実施概要

Koyori Project はランナー文化芸術協会（LCCA）とラジャマンガラ工科大学ランナー校（RMUTL）と協力して実施しているプロジェクトです。地域の文化資産や資源を活用して地元の工芸品のレベルを創造性とイノベーションによって向上させ、付加価値を高めることを目的とし、「伝統工芸品の職人におけるスキルアップ、知識と能力を高め、新しい生活様式のニーズを満たし、独自の優れた製品または伝統工芸品の開発と創造性を高めるための研修プログラム」として 2019 年よりスタートしています。日本学生の参加は 2021 年から始まり、年々参加大学も増やしながら、2025 年度は 29 名の日本人学生が参加しました。本学の参加は昨年に引き続き 2 回目の参加となり、生産デザイン学科プロダクトデザイン専攻の大学院生 1 名、学部 2 年生 8 名が参加致しました。本プロジェクトでは、職人 1 名、タイ学生 1 名、日本学生 1 名、タイ、日本のデザインアドバイザー各 1 名、通訳 1 名を 1 グループとし、合計 30 のワーキンググループを構成し各グループでプロジェクトを進めて行きます。対象地域はタイの中でも伝統のある工芸品や製品の生産拠点が多くあるタイ国北部地方を中心とした 8 県（チェンマイ、ランプーン、ランパーン、メーホンソン、チェンラーイ、パヤオ、プレー、ナーン）に各グループごとに別れ、フィールドトリップを実施し、職人と数日間共にしながら歴史、製法をリサーチしながら、製品の開発を行って行きます。最終的には実製品を展示販売を行いながら成果発表を行いました。

参加大学

多摩美術大学 / 同志社女子大学 / 福井工業大学 / 文化ファッション大学院大学

Rajamangala University / Chang Mai University / University of Phayao / Thammasat University

多摩美術大学参加メンバー

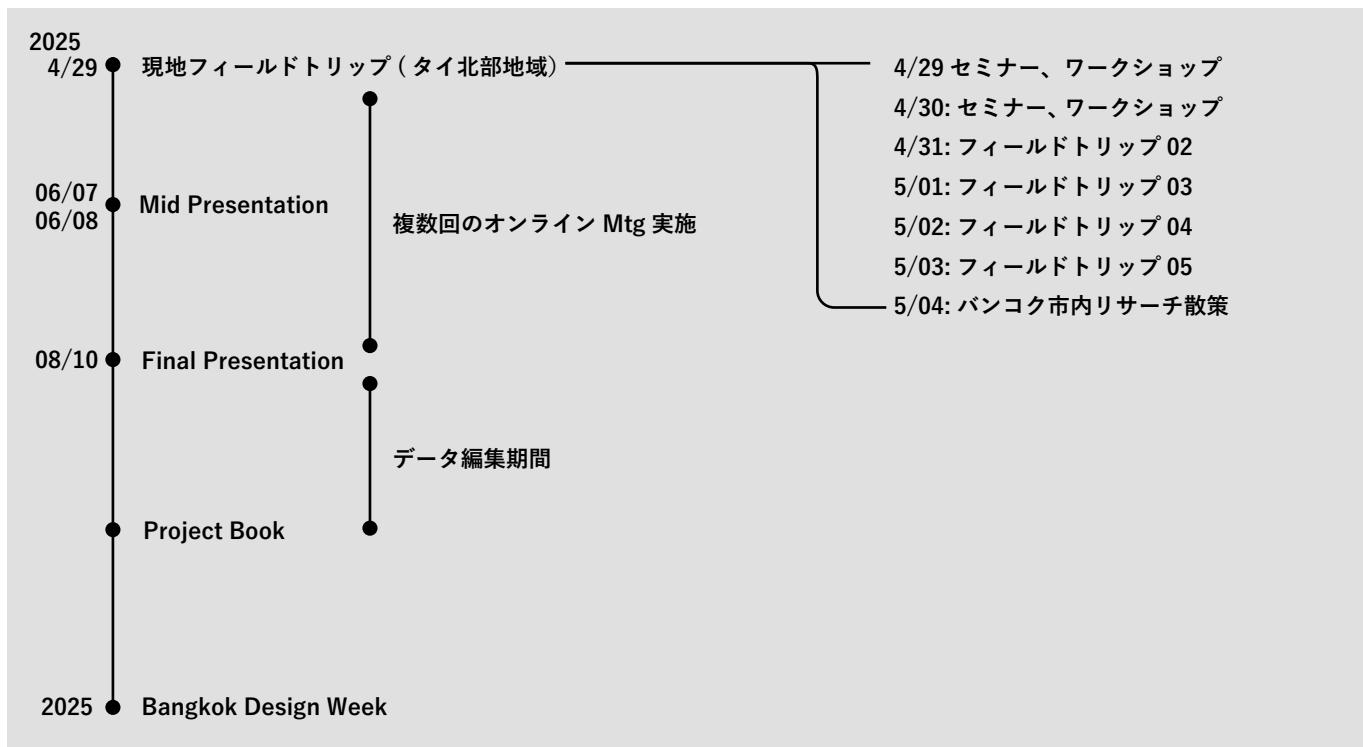
生産デザイン学科プロダクトデザイン専攻

引率・指導教員 2 名

生産デザイン学科プロダクトデザイン専攻 大学院 1 年 1 名 学部 2 年 8 名

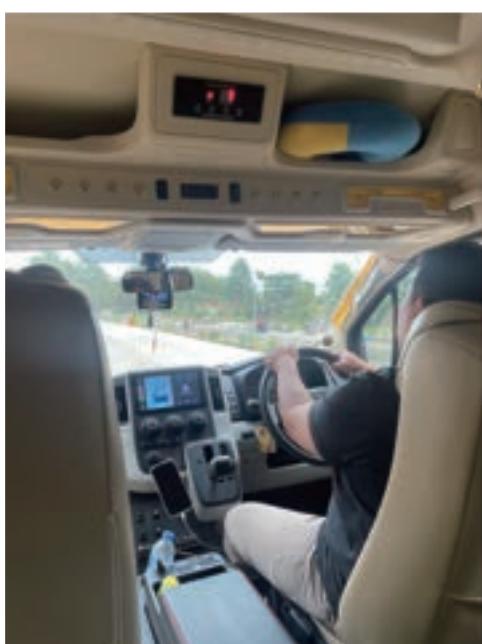
スケジュール

プロジェクト期間はプロジェクト冊子発行や展示会出展を除くと約 4 ヶ月間の実施。さらに参加学生が実際に現地に訪れる期間は 4 月 29 日から 5 月 4 日の 6 日間のみ、その後のコンセプト立案やアイデア展開、製品のディティール確認などは全てオンラインでの打ち合わせで行いました。



4/29-4/30 セミナー、ワークショップ

プロジェクト開始初期の3日間はチェンマイ市内にある研修施設にてセミナーとワークショップに参加しました。ここでは、多摩美術大学 和田達也教授によるデザインシンキングの講義及びワークショップが実施されました。今年度は懇親会を企画いただき、学生感の親睦を深める良い機会になりました。



4/31-5/04 フィールドトリップ

チェンマイ市内から各グループ事に貸切のバンで実際にフィールドトリップを行いました。長いところでは5,6時間車で移動することもありましたが、日本人学生にとっては、現地の現状を実際に目にできるのはこのフィールドトリップの4日間しかないことから、学生は職人や工房の近くで宿泊し、作業環境からその地の歴史の勉強と連日作業に同行しながらデザインコンセプトを模索します。



4/31-5/04 フィールドトリップ



4/31-5/04 フィールドトリップ

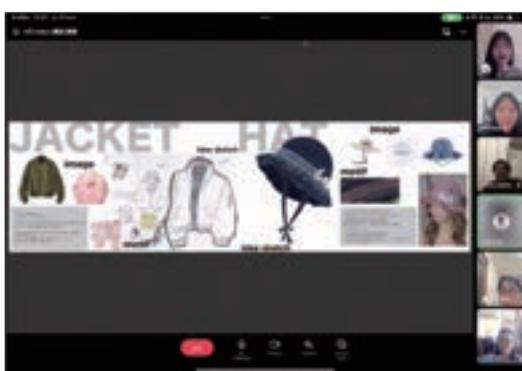


4/31-5/04 フィールドトリップ



5月—8月 オンラインミーティング

帰国後は1週間から10日に一度オンラインでの打ち合わせを実施しています。フィールドトリップやリサーチの結果から、より具体的なデザインの方向性を職人、タイ学生交えて組み立てていきます。技術、加工方法など専門的な言葉や細かなニュアンスに関しては通訳者がいる事で、時間はかかりますが何度も打ち合わせを行いながら理解と改善を行なっていきました。



最終成果物



LADA POTTERY

絵付け・型押し技法の開発



Prasitsila



産地石材のホームプロダクト開発

最終成果物



MHAN



シルバージュエリーのデザイン支援

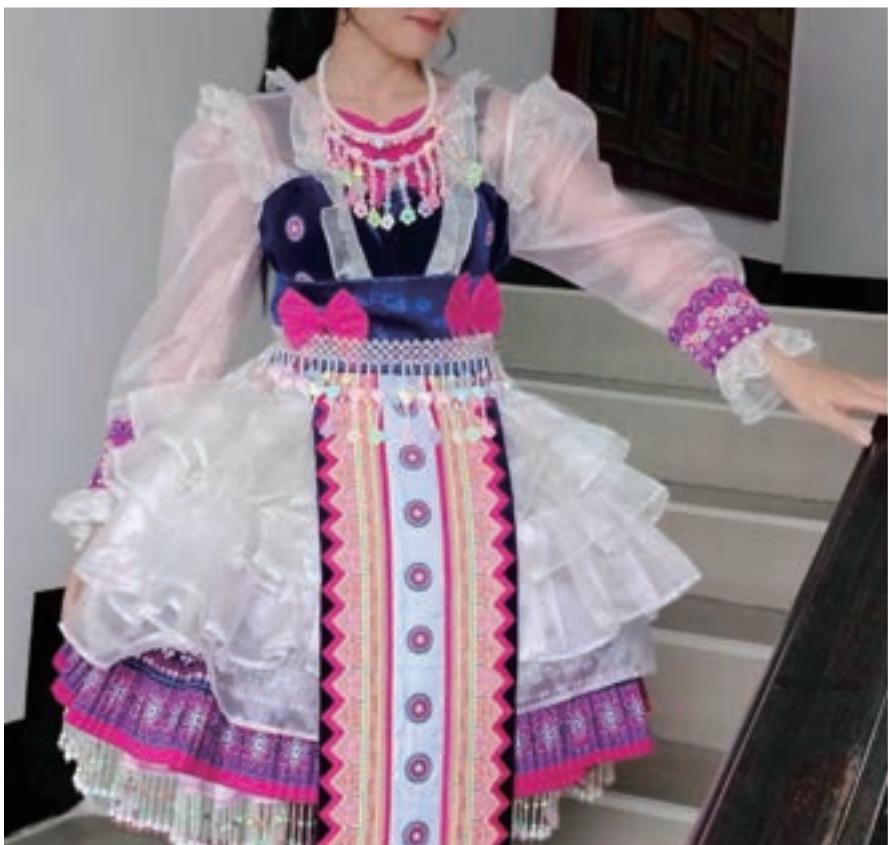


Bamboo Weaving



竹材の技法開発と製品開発支援

最終成果物



Ban Hmong Mai Handicrafts



伝統技法の研究



Cluster Phrae Teak Wood

地元チーク材の商品開発

最終成果物



Rattan Weaving Charm

ラタン編みと製法研究



Rongtieym Pan Din



低温度焼成での土と釉薬の研究

最終成果物

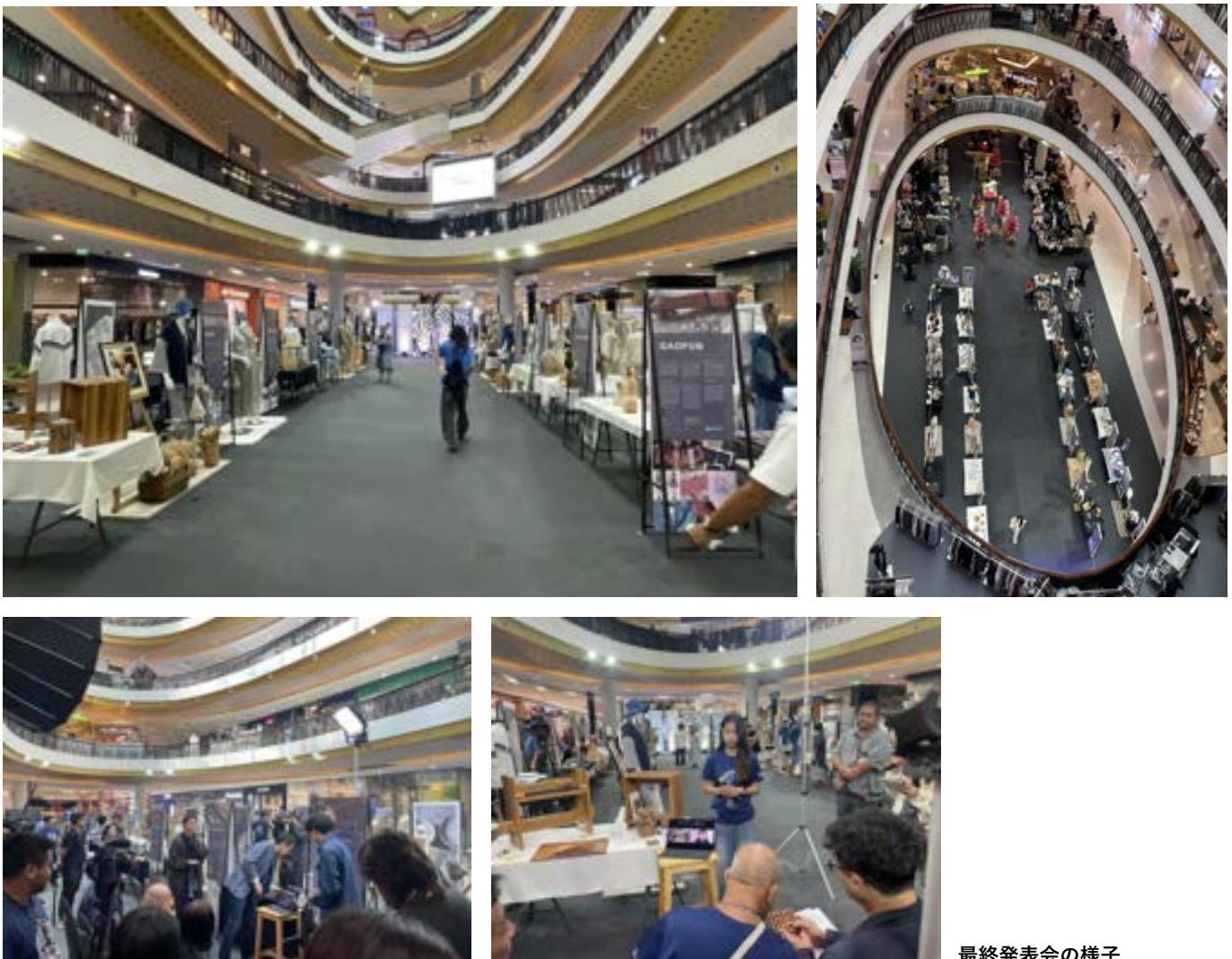


Ban Kang Jai



ハギレのアップサイクルと生産方式の改善

最終発表は昨年に続き、チェンマイにあるセントラルマーケットプラザ内で実演販売を行いながら実施しています。学生は日本からのオンライン発表でしたが、2日前から発表のリハーサルを行い本番に挑みました。プロジェクト終了後は、成果をまとめた冊子の発行、タイ国内のチェンマイデザインウィーク2026年のバンコクデザインウィークでの出展を予定しております。



プロジェクトを終えて

昨年につづき、本プロジェクトに参加する事で、学生が現地での生の情報や問題に触れることが出来るこの取り組み、特にフィールドトリップ期間の重要性を再認識しました。プロジェクトとしては昨年より環境問題に対する対策、特に環境配慮の素材選定やPM2.5への対策課題がテーマに明確に盛り込まれ、改めて循環型社会への意識の必要性を感じることとなりました。プロジェクト期間中も異例の大雨やそれにともなう水害があり、私たちの担当する地域や工場にも深刻なダメージがあり、それに伴う生産方式の変更や工夫を発表会直前まで対応することになりました。歴史的な生産方法や自然物の加工方法も、環境や状況が変われば全て見直さなければならなくなる。サステイナブルな製品開発には、地域性、季節などマクロにもミクロにも様々な情報をとり、進めていく必要があると改めて痛感しました。最後に、学生のフィールドトリップの渡航費としては国際交流活動支援金が大きな助けとなりました。ご協力頂きました国際交流センターにお礼申し上げます。



洪水被害にあった工場の様子